8 琵琶湖・富士図

山元春挙

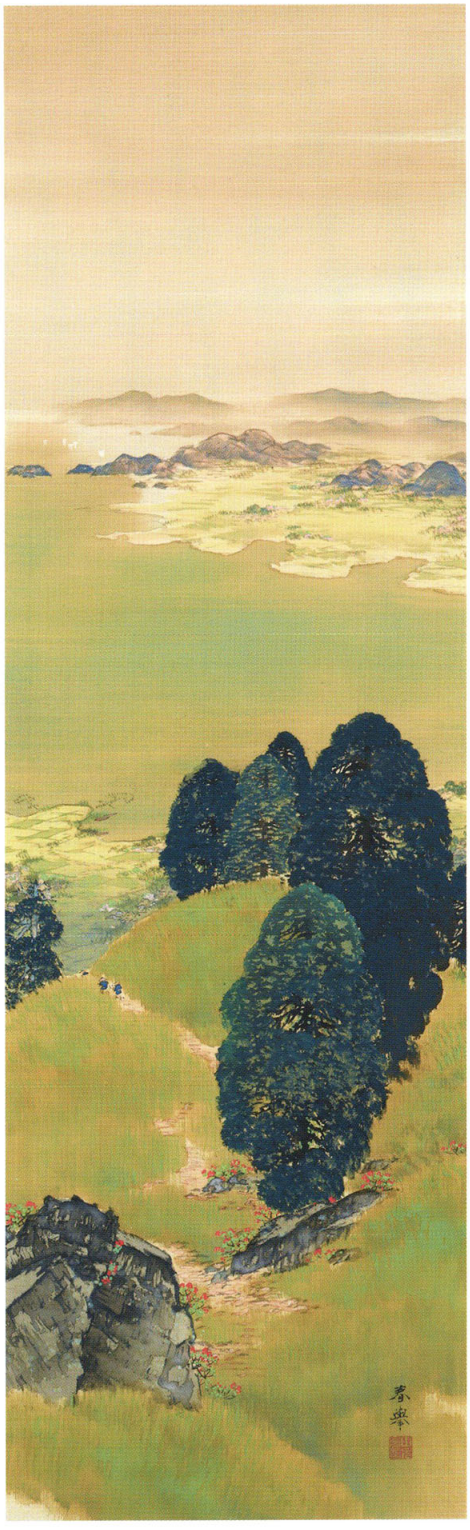
大正十四年（一九二五）
絹本着色
各一一七・九×三六・〇

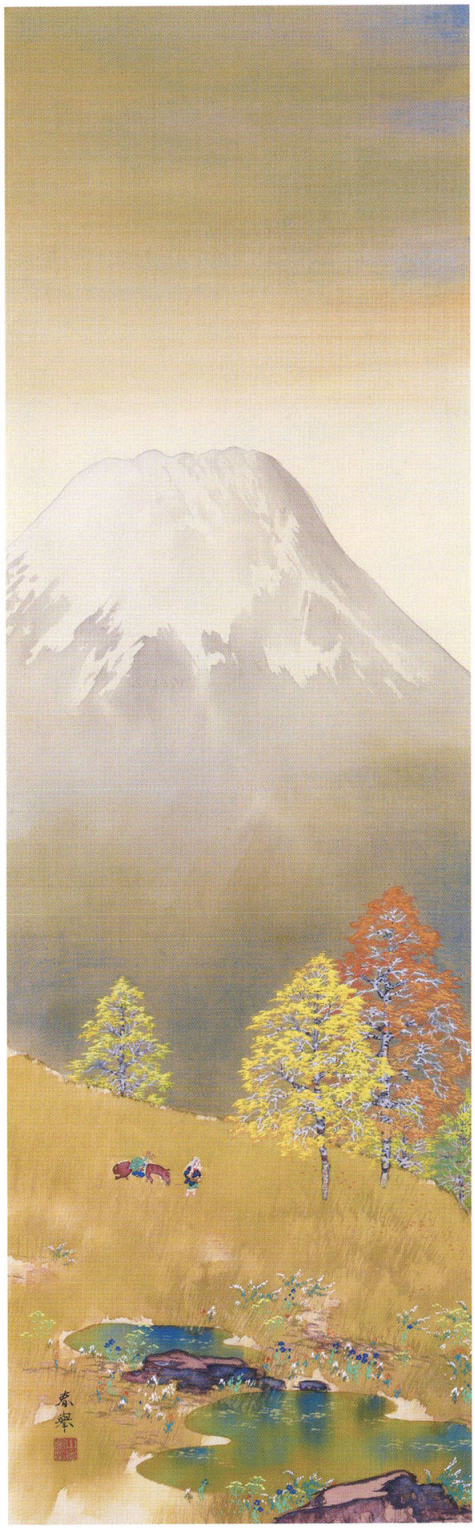
対幅

右幅は春景の琵琶湖を、左幅は秋景の富士を背景とし、雄大な自然に抱かれた人々のささやかな暮らしを穏やかな画風で描く。左右では見下ろす構図と仰ぎ見る構図、春と秋、水と山、西と東など、様々な対比が意識されている。

右幅には、滋賀県膳所出身の山元春挙の故郷の景といえる琵琶湖畔を描く。そこここに点じられたピンク色の花が、観る者を近江ののどかな春へと誘う。遠くに白い帆をたてる船はかつて水運や漁業に従事し琵琶湖を盛んに往来していたもので、近江八景にも「矢橋帰帆」として詠われている。左幅では、紅葉した樹々や秋の草花が咲く豊饒な秋景のなか、女性が荷を積んだ馬を牽く。明治三十六年（一九〇三）の『名家訪問録』第三集において春挙は、決まりきった富士の形に執着せず西洋的な写生を取り入れるべきことを唱え、それを「牛肉も食べてみれば中々うまい」となぞらえている。淡い色調ながらも悠然とした存在感をもつ富士の描写には、春挙による実地写生の経験が活かされている。

本作は、大正十四年（一九二五）の大正天皇大婚二十五年にあたり、京都華族一同からの献上品として制作された。





・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写
三の丸尚蔵館展覧会図録No.86

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社アイワード
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan